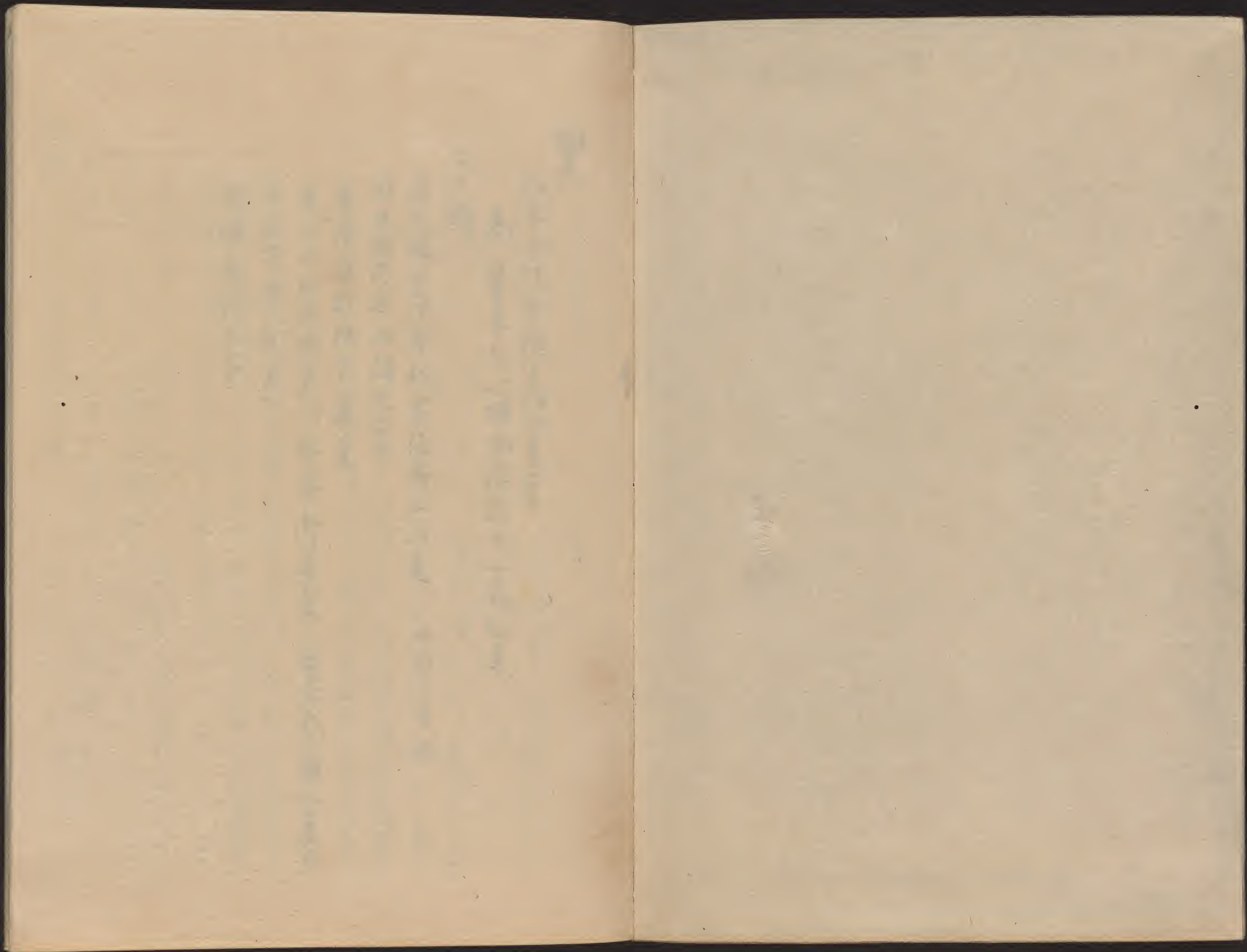


823  
M8 N2

戰  
江  
入  
楚

夏  
氏

16





開屋

伊子守任常陸下向以來夏

是八賢木卷之時分源氏九二歲之夏

廿八歲

源氏歸京次年秋常陸守上洛夏

九月廿日也

同日源氏石山詣之夏

常陸守於路奉逢夏

自石山松銘時右束門統泰清迎夏

右束門統泰清之小君也

乃陸守率去事

空蟬君乃尼事







欠 蟠 乃 今 之

[illegible]

奧

意を以て則ち成る多敷に奇此を小ふは  
 之よりみち美落り又多什

は  
は  
子れまぬるをさみふれに無とつきて劇如氣  
奥入云は命不叶は事相うゆれ

奥入之計不叶は事相う動凡

墨

古今方々いふと神うー山こー吹風を人おえりや下りてやん  
此哥乃心後ふさけひゆりき語ふはもよちやーゆるんよりそ  
ういぬとほろ子さへひくもるー西首たよあられ中へ  
<sup>笑</sup>人少しなりや上りて屋に入んぞそちるされしもうさる  
屋小多ねにかゝてとやういふひとたり実同  
うされる事となりー源を公と源入陰唇之何う記  
ふしうささく前かとは心まこり尻色がハ却て主祐うささく  
京にゆりねういてまたれど一乃秋をはきき草子これ歌  
がかとはい初りーるてあり

以孝道為

花源氏廿八卷之歸京此阿るるにれ事

妻一任曰今年に之又年より乃り之深氏を治すべし治す能ふ

三  
一  
七  
五  
二  
九  
八  
六  
四  
三  
二  
一

ぢいふ日

おぼれ

長久御令に

石山寺

聖武天皇御

宇金鷲仙人建立  
旧記云聖武天皇師僧正朗弁者先生震

且修行者也為求法向舍衛國欲渡流洑无功錢數月逗留

天皇者先生沙船師也不願功錢濟渡修行僧既畢余時作終

行僧為酬之恩可生將來國王之由致誠精祈折言冀念力生

日本国王也然今生樂尽後生可受苦因也朗舟奏云速矣

伽藍可為後世之寶糧天皇依教喻余建立東大寺奉鑄大仏

依先泐金晝夜大息之間夢中有人奏曰水邊建立伽藍祈請

砂金出來乞夢驚令求勝地建立觀音像不經歲月下野國初

真砂金今之石山寺是也

支

とちふとそくわくそとふと



は後くまふくもふるや 休よぬもくもは岩原氏の人

なれは速く是て石之橋を渡ると名をいふなり

ゆりこくふ小 車ふのふゆなり

うらぐれ瀬をなが 今れたはとふはなり

き陸よりぬる人きずか乃瀬くをに源を栗田ふこ

ゆよとて前近き人くくやふへ来るこ

後をりる山 わるやふあやふくもふふなり

さうはもるきなりなり

雲山よりれかりぬき き陸よりぬる人くく源をり

きふんとて雲山よりなりぬき

車ともれかり けふけふとれ

午ともけふて陸をかりぬき

くるゆなりぬきとくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

車くともなりぬき 是は雲霧なりぬきなりぬきなりぬき

かきぬきなりぬき 元暦の書れぬきなりぬき

舟きぬきなりぬき 舟きぬきなりぬき

私は後伊豫へもぬき 舟きぬきなりぬき

かきぬきなりぬき 舟きぬきなりぬき

後きぬきなりぬき 舟きぬきなりぬき

源乃く山威光のむきぬきなりぬき

小前近なりぬきなりぬき

ぬきなりぬき 源の前近なりぬき

よめくぬきなりぬき

九月つこなり かりぬきなりぬき

雲山よりぬきなりぬき

こくくくくくくくく

河内本くくくくくくくく

源へきく雲山へきくくくくくくく

なれぬきなりぬき

きぬきなりぬき ぬきなりぬき







紀乃守とひしと

秘中乃家乃一なる人

それかとうとの名をれりしとて

何解ト云ニ

紀伊守中乃家乃一は名を忠也伊守子く次子一

御供一と云し

とるこてなりお給ふられしとてふれとひなりて

次子一此れせぬ人としてとふ人なるなり又此より一多なる

忠なりと云ふて一貴しき人としてとふ人なるなり一此と云ふ

世小なりと云ふと 是時乃中乃と後世乃とをよみまふと

とけりしと云ふ 右忠乃供

御をれと云ふ うつと云ふ

今ハおれと云ふなりと云ふ 右忠乃供中

一日ハ後乃と云ふなりと云ふ 其乃の初

と云ふは乃と云ふなりと云ふ乃の初と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり

乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり乃と云ふなり







あらうしん

伴ふかきぬる名跡あらうしん

親のいししんおのいおくる様へも念はれぬは

なみいふはしん はうしん とて

さるもかたもせぬしん はせは とて

あらうしん

なみいふはしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

御事れしはふあるは はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて

あらうしん はせは とて







